

第9回市民・地域共同発電所全国フォーラム in 福島

2016年11月4日に「パリ協定」が発効しました。パリ協定では今世紀後半までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指し、化石燃料から、自然エネルギー100%へと転換していくことが求められています。自然エネルギーへの転換が、地域の経済の活性化や雇用の創出など、生活の質の向上にもつながるものであることを形にしていくことが求められています。

近年世界では多くの国や地域、企業、大学などが自然エネルギー100%を目指すことを宣言し取り組みをスタートさせています。日本でも福島を始め各地で自然エネ100%を目指す動きが生まれ始めています。自然エネルギーへの転換を進めることは、エネルギー源の転換だけでなく、それに付随するインフラ、都市構造、産業構造、地域社会のあり方や人々の価値観も含めて大きな変革を進めていくことを意味します。

全国フォーラムでは、自然エネルギー100%に向けた市民・地域の取組について確認、共有するとともに、変革をさらに加速させていくために必要な政策や方策、ノウハウについて検討を行います。

と き：2017年11月2日（木）・3日（金・祝）、4日（土）はエクスカーショ

ところ：コラッセふくしま（福島駅西口より徒歩3分）

1日目：11月2日（木）午後1時30分開会 <全体会>

(1) 基調報告

- ・国内政策の動向と展望：高村ゆかりさん（名古屋大学大学院）
- ・福島での取り組み報告：佐藤彌右衛門さん（会津電力）、加藤勝一さん（元気アップ土湯）

(2) 市民・地域共同発電所の全国調査結果報告：豊田陽介さん（気候ネットワーク）

(3) ポスターセッション団体紹介

(4) ポスターセッション交流 ※懇親会（午後6時30分頃から開始）

2日目：11月3日（金・祝）<分科会>

○午前9時30分～12時

- ①農村における再生可能エネルギーの可能性
- ②地域新電力のつくり方

○午後1時～3時30分

- ③里山資源を活かす小規模木質ガス化コージェネレーション普及を目指して
- ④生協と再生可能エネルギー
- ⑤小水力発電取組事例の紹介と課題

○午後3時30分～4時30分<クロージング>

各分科会報告、アピール文採択

3日目：11月4日（土）午前 <エクスカーショ>

福島駅前集合・解散

コースA：

土湯温泉の小水力発電
地熱発電の見学

コースB：

飯舘村をめぐり再エネと
除染の実態を見る。

※企画は7月時点の企画案です、場合によっては変更の可能性があります。

**企画の詳細、参加申込などは8月中には
自然エネルギー市民の会ホームページよりリンクする予定です。**